

みんなの 町議会

 神石高原町

第 48 号

平成28年10月15日

みんなで力を合わせて
ヨイショ！ヨイショ！

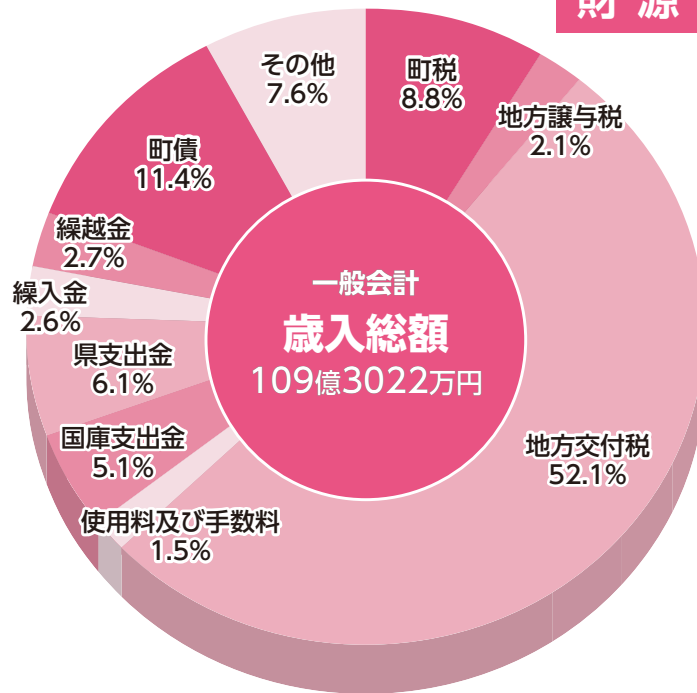
■決算をチェック	5
■町政のここを聞く	8
■ありやあどうなったん？ ...	20

黒字決算

9月定例会

9月定例会は、9月7日から20日まで開かれました。平成27年度の一般会計と8特別会計及び病院事業会計を審議し、全会計を認定しました。また、補正予算を含め30議案を審議し、すべて原案通り可決しました。一般質問では、10人が町長・教育長に行政課題などについていただきました。

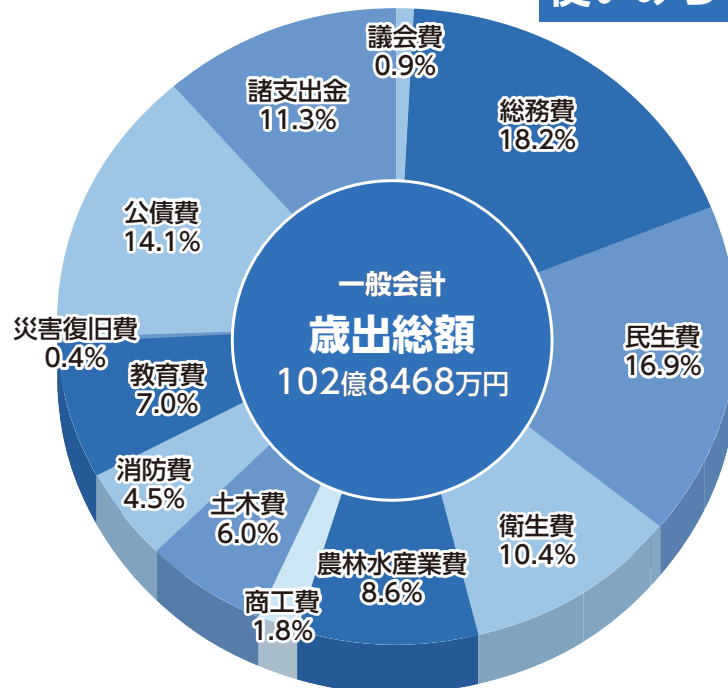
財源



歳入

前年度と比較すると、額にして7338万円、率にして0.7%の減少。主な要因は繰入金・国庫支出金・県支出金・地方交付税の大幅な減少によるもの。一方で、寄付金・町債・地方消費税交付金などが増加。

使いみち



歳出

前年度と比較して額にして1億2813万円、率にして1.2%の減少。主な要因は、統合中学校建設事業、災害復旧工事などの減である。

平成27年度
決算



全会計

実質公債費比率



実質公債費比率は……………
繰り上げ償還を行ったことなどから昨年より
1.9ポイント改善した。

★実質公債費比率とは

自治体の収入に対する負債返済の割合を示すもの。
18%以上だと新たな借金をするために国や県の許可が必要。
25%以上だと借金を制限される。

平成27年度 神石高原町各会計歳入歳出決算総括表

単位：万円（四捨五入）

会 計 名		歳入決算額	歳出決算額	繰越財源	差引残額
一 般 会 計		109億3022	102億8468	7001	5億7554
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険 特 別 会 計	13億7077	12億7426		9651
	後 期 高 齢 者 医 療 特 別 会 計	3億6391	3億6128		263
	介 護 保 険 特 別 会 計	19億1642	18億9745		1897
	簡 易 水 道 事 業 特 別 会 計	2億5997	2億4859		1138
	飲 料 水 供 給 施 設 事 業 特 別 会 計	4343	3873		471
	農 業 集 落 排 水 事 業 特 別 会 計	2億6399	2億4702		1698
	総 合 開 発 事 業 特 別 会 計	3122	3120		2
	分 収 育 林 事 業 特 別 会 計	4	4		0
病 院 事 業 会 計		4億7452	4億7442		10
合 計		156億5451	148億5766	7001	7億2683

平成27年度に行った
主な事業



大規模改修工事を終えた来見小学校

町立病院電子カルテシステム導入	1億6033万円
小畠住宅建設 A棟4戸	8611万円
来見小学校大規模改修	7977万円
消防デジタル化無線整備	3723万円

町の財政状況は？

基金残高状況

単位：万円（四捨五入）

おもな基金名	26年度末残高	27年度末残高
財政調整基金	43億1826	50億2810
減債基金	9億2208	9億8931
重点公共施設新設整備基金 他11基金	43億2987	47億3874
特別会計基金	3億4933	2億8779
町立病院運営資金貸付基金	1億0628	1億0648
合 計	100億2582	111億5042

町債残高（借金） 平成27年度末残高 131億円

ふるさと応援寄付金の内訳

単位：円

指定された使いみち	件数	平成26年度	件数	平成27年度
教養のまち「神石高原町」を推進するために必要と認められる事業	13	160,000	15	259,000
安全で快適な学習環境の整備及び小・中・高連携教育に関する事業	12	205,000	12	323,000
子育て支援及び若者定住支援に関する事業	11	210,000	21	340,000
高齢者及び障害者が安心して住み続けられるための事業	16	490,000	27	585,000
水源の里まちづくり事業	15	876,398	46	975,000
町内の自治振興会に対する支援	17	520,000	34	1,640,000
町内のNPO法人に対する支援	3,775	76,161,987	14,806	380,763,750
合 計	3,859	78,623,385	14,961	384,885,750

5 神石高原町議会だより No.48 2016.10.15

平成27年度決算は

木野山議員 決算と今後の見通しは。

- ①CATV事業
- ②井関定住団地
- ③病院事業会計

町長 ①任期中で一番成功した事業だ。今後満足度が上がるように努力したい。

②若い人が多く定住し、人口増に繋がった。

③不本意だが年間2億円の補填が恒久的となった。病院医療関係の存続のためには、今後大胆な改革が必要だ。

まちづくり推進課長

①基金残高は、平成

27年度末で3億1742万円。今後ネットワーク更新など大規模改修を予定。

②基金残高は6628万円。ほぼ売却できたので今年度中に精算したい。

ふるさと納税は

木野山議員 NPO法人に対して、ふるさと納税の報告書の提出は。目的外使用はないか。

協働支援センターへの寄付には、ふるさと納税応援条例の改正が必要では。

まちづくり推進課長

報告書は簡易だが提出されている。活動に対する寄付なので目的に沿っていると判断している。協働支援センターの寄付については、条例改正が必要である。

生涯学習課

ブックスタートは

松本議員 本町のブックスタートは、生後9カ月から行われている。もっと早い時期にできないか。
生涯学習課長 保健課と協議する。

建設課

技術者の不足の対応は

松本議員 公共事業の縮小により技術者が不足し、新たな技術者の養成が出来なくなっているが、この対応は。
建設課長 雇用については、制度を活用すると共に公共事業の財源確保に努める。

除雪の委託は

久保田議員 協働支援センターに、指定した

路線の除雪を委託できないか。

町長 行政の補完として検討は必要である。

産業課

農の雇用助成制度は

村上議員 農業従事者の高齢化・後継者不足などが進行する中で、雇用助成制度を活用した就農者数は。

産業課長 畜産3名、法人3名、トマト2名の8名が継続中と新規に畜産1名、法人1名、野菜1名である。

村上議員 広島県では、平成27年度農の雇用事業の実績は就農者数は91人、経営体数は63名だが本町では。

産業課長 農の雇用事業を活用した農業法人等は3経営体。新規就農者支援事業に863万円を助成。個人経営農業者への雇用申請は

ない。

鳥獣被害は

久保田議員 平成27年度鳥獣被害額と、猟友会の増員対策は。

町長 農業共済の被害申請額で、198万円。狩猟免許取得の助成をしている。

久保田議員 電気柵の安全対策の指導、啓発はしているか。

町長 購入した際にしっかり読んで設置してほしい。町広報で啓発をする。

久保田議員 追い払うための火花を配布してはどうか。

町長 講習を受けた地域では一部助成し購入していただいている。2回目は検討する。



生後9ヶ月から始まるブックスタート

保健課

介護認定の検証は

横山議員 介護認定

が公平かつ適正に行われているか検証する必要があるのでは。

町長 適正な認定を行うため、介護認定審査期間の短縮化と各合議体における審査判定の平準化に努めていきたい。

福祉課

障害者支援を

横尾議員 在宅心身

障害者の社会参加の促進と収入を増やすため、作業所での仕事の確保が、町でできないか。

町長 障害者優先調達推進法に基づき拡充できるよう努めていきたい。また、収入の向上支援に協力していきたい。

環境衛生課

収集運搬業務は

横尾議員 クリーン

センターじんせきの施設管理経費と収集運搬業務の委託料が増額になっている理由は。

環境衛生課長 震災などの影響により、全国的に労務単価の上昇による人件費の引き上げの結果、経費が増えた。

野犬の保護は

赤木議員 町が野犬

を保護した場合、NPOへの委託経費は適正か。

環境衛生課長 NPOとの協議のうえ適正な価格として決定しているもので、問題はないと考える。



ディーゼルエンジン用の尿素水製造（ゆき作業所）

平成27年度決算審査意見書（抜粋）

代表監査委員

岡崎 武志

監査委員

寄定 秀幸

(1) 遊休財産の活用

遊休土地・建物財産の管理に当たっては、有効活用を図るとともに不要財産については、売却等の検討を図り、管理経費の削減に努められたい。

(2) 財政状況

財政状況は着実に健全化がなされているが、引き続き経常経費の抑制、無駄の排除、節約の徹底を期されたい。

(3) 基金管理

基金管理は適正になされている。基金運用については、多額な運用益を得ていることは大いに評価する。

「若者が夢と希望を持ち、安心して子育てができる環境作りの実現に向け、雇用の創出と働く場所の確保」を最重要課題と位置づけて、多様な施策に取り組みられ当年度事業は概ね所期の目的は達成された。

定住対策、企（起）業家支援、農林業振興対策、観光開発などについては、今後も引き続き取り組みを推進すべきである。また、少子化対策や定住対策の推進と併せて、「協働のまちづくり」推進が今後の町政運営の課題と思われる。

財政健全化が図られている事は大いに評価できる。

一般会計及び各特別会計とも黒字決算となったことは、高く評価するものである。

問 公民館の統合は

答 協働支援センターで活動を要望



久保田 龍泉 議員

Q 公民館と、協働支援センターを統合する話があるが、いつ決まったのか。利用者の方は不安に感じている。

A 町長 合併後、協働のまちづくりについて検討し、公民館も自治公民館として機能できないか検討しました。

5月に協働支援センターが設立し、現在まちづくり計画を策定しており、業務の中に生

涯学習事業を計画に盛り込むようお願いした。統合が決定しているのではなく、検討中だが統合してゼイ肉を落とし、自治公民館として包括するのがいいと考える。

Q 公民館は社会教育法で設置が義務づけられているが、どういう不都合があるから統合するのか。

A 町長 民間でも運営でき、現在の活

動が十分でないから統合するのではない。

Q 館長や活動団体の声を聞かれたか。

A 町長 昨年から館長を集めて方向性について話をしており、理解は示してもらっている。

Q 協働支援センターは現在事業計画を策定中で、これに公民館を統合して活動できるのか、なぜ急いで

するのか。



神石郡美術展（総合交流センターじんせきの里）

A 町長 色々な声が出ており、不安を与えているのは事実で伝え方が十分でなかった。活動をなくすことは考えていない。

期日前投票所の見直し

Q 高齢化が進み投票に行くことが困難な方が増えている。期日前移動投票所を開設し、利便性と投票率の向上を図るべきだ。浜田市では参議院選挙で

全国で初めて期日前移動投票所を開設した。これはバスに機器を積んで移動し投票するものだ。

A 本町でも期日前移動投票所を開設し、利便性と投票率の向上を図るべきでは。

A 総務課長 期日前投票所は、利便性向上のため選挙管理シ

ステムを導入しており、本庁・支所しか整備されておらず、他の施設の整備にはケーブルの配線など多額の費用がかかり、紙ベースでの選挙人名簿を使つての対応となる。

システムと、紙ベースによる選挙人名簿の同時使用は二重投票の恐れがあり、今秋の町長、議会議員選挙の期日前投票期間での導入は困難である。検討はしており10月に浜田市を視察予定である。

Q デイサービスを利用時投票ができないか。

A 町長 投票は困難である。

Q 支所の期日前投票所へはふれあい号の利用は可能か。

A 町長 可能である。



小川 清治 議員

問 公約は実行出来たか

答 財政再建が成果だ

Q

町長は、行財政改革なくして新町の未来発展はないとして、三つの過剰の解消をあげた。

誰もが住んでよかった、住みたくなるまちづくりに向け、公約に沿い手腕を発揮され行財政の改革立て直しを果たされたことは評価するべきものだ。

また、基金運用もでき、財政指数も県下上

位を維持している。

現在は地方創生に向

け、『挑戦のまち神石高原町』をスローガン

に掲げ、歯止めがかか

らない人口減少の中

で、新たに人口倍増計

画チャレンジプラン2

019を掲げ、少子化

対策や定住の確保のた

め「若者が夢と希望を

持ち安心して子育てが

できる環境づくり」を

最重要課題として雇用

創出、地場産業の育

成、起業家の育成支援

などの住みよいまちの

実現に向け、町長を先

頭に邁進されている。

3期目の任期が満了

しようとしているが、

成果の中で、3期を振

り返り、一番の成果は

何か、また出来なかつたこと、次期町長に引

き継ぐことは何か。

A

町長 自己評価はしたくないが、財政再建が一番の成果だと自負している。出来

なかったことは、こ

こでは言いたくない。次

期町長には、今までつ

くった基盤をもとに、

人口減少対策など、将

来持続可能なまちづく

りに向け取り組んでい

ただきたい。

Q

誰もが住んでよかった、住みたく

なるまちづくりが出来

ますようしっかりと引

き継ぎをして頂きた

い。

A

町長 しっかりと引き継ぎをした

い。



未来を担う子どもたち（来見小学校運動会）

問 持続可能な自治体経営は

答 人口倍増に向けた地方創生に取り組む



寄定 秀幸 議員

に向けた地方創生の推進が重要である。

Q 合併以来、行財政改革に取り組み財政状況は大きく改善した。

今後の財政規律についての考察は。

A 町長 必要な財政規律を堅持するとともに、今回の補正予算で新規に造成する基金などを活用し、人口倍増など、地方創生に向けた新たな施策に取り組む。

町の存続に向け、あらゆる地方創生事業を全力で推進する。事業を推進するには、※PDC Aサイクルの考えを導入し、徹底した費用対効果の分析実施を行う。

また、遊休財産の処分を進め、建物などにかかる維持管理コストの低減と効果的な活用を図る。町の税収増加

と、保有する資金（基金）の効果的な運用（債券運用など）を進める。

※Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）の4段階を繰り返すことにより、業務を円滑に進める手法。

Q 人口増加対策として、「住んでみたい」、「住み続けたい」と思える施策が重要では。

A 町長 昨年「神石高原町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、平成27年度から取り組みを始めたところである。

施策の方向として、①子育てしやすい社会の創生

②地域の未来を担う人材の創生

③安定した雇用の創出

④新しい流れの創生

⑤時代にあったまちの創生

を掲げている。

各年度で事業の評価を検証しながら、取り組んでいきたい。

Q 自己決定と責任が問われる自治体経営において、一三元代表の一翼を担う議会の責任と役割は重要であ

ると考えるが、議会に対する考えは。

A 町長 町長と議会とは、車の両輪のごとく良きパートナーであり、お互いに切磋琢磨し町政の発展を図りたい。



元気いっぱい体育祭（油木高校）



木野山 孝志 議員

問 就任以来の成果は

答 行財政の基盤が出来た

Q

町長就任以来、本の舵取りは多難を極めたと思うが多くの成果を挙げられた。

①首長としての3期12年間で一番誇れることは。

②本町の持つ一番の課題は。

③次期町長に、また議会に託したいことは。

④目的基金の積立という形で次期町長に託されることは。

A

町長 合併後の本町は経常収支比率が91・8%とほとんど財政破綻の状況だった。職員たちの協力もあり、死にもの狂いでやり抜くぞという決意でやった結果が、今日に繋がっている。

常日頃心がけた事は、「謙虚に低姿勢のスタンスで町の一体化を図る」、「持続可能な町の実現をやり遂げる」、「行財政改革」の三つで、財政健全化については一定の目的が付いたと思う。

①一番誇れる事は、しいて言え、行財政の基盤が出来たこと。

②本町の一番の課題は財政力指数が20%弱と脆弱である事。

③次期町長に託したい事は、人口倍増、地方創生の進展をお願いしたい。



玉入れ頑張る子どもたち（どんぐり幼稚園）

議員は旧町村からそれぞれ選出されており、地域課題を把握している。

その課題を共有し、施策に反映して欲しい。

④基金については総額で10億円を補正予算で上程する。

企業誘致目的基金として3億円。

油木高校のさらなる進化に2億円の積立。

病院の将来に基金が必要だ。現在、医療介護等に16億円積立しているがさらに1億円を加算。

農林業振興で2億円を新たに積立。

子育て・高齢者支援の充実強化に向けて2億円積立。

基金を目的化したので、新町長には、基金を有効活用し、町の発展に寄与して頂きたい。

神石牛へ地元産粗飼料を

答 安定供給に努めたい



村上 克朗 議員

Q 神石牛の発展には、安くて安全・安心な地元産粗飼料の安定供給が重要だ。飼料の生産、回収には高額な機械の導入が必要で、経営を圧迫する。一時保管場所の確保、配送体制、品質向上のための飼料分析など、J Aや行政など関係機関の支援組織はできな

い。町長 本年3月に国の補助事業に必須要件の「神石高原町耕畜連携協議会」を立ち上げた。

構成員は、町内の耕種農家や畜産農家と県、町、J A、全農などである。事務局は町とJ Aが担っている。

Q 和牛の里のような草地进行、公共牧草地として各地区に建設できないか。

A 町長 神石牛を発展させるためには、安心な地元産粗飼料の安定供給に向け、取り組みが大事だと考えている。需要と供給の調整役もこの協議会が担っている。牧草地も今後の荒廃地を再利用することで改良も可能だ。

Q 水田フル活用で畜産振興などバランスの取れた生産構造へ転換し、主食用米に依存した農業構造から脱却が必要だが、飼料用米の利用には粉碎などに使う機械の整備が必要だ。

Q 国の農業施策の中に、広域的な供給、利用にストックヤードや施設、機械の

神石牛営農指導体制の強化や養豚・養鶏への飼料用米の出口対策と供給体制及び、加工業務に向けた組織化を立ち上げるためには、本町とJ Aの連携が重要だ。

A 町長 飼料用米は、本町では、8経営体農家が8・84ha作付している。うち、町内の養豚業者が6・49ha、町外の養鶏業者が、2・35ha分を消費している。

米価の低迷が続く中にある、水田のフル活用は必須であり、国も転作補助金を充実させるなど取り組んでいるが、収量によって補助金額が制限されているため、作付面積が伸び悩んでいるのが現状だ。

Q 国の農業施策の中に、広域的な供給、利用にストックヤードや施設、機械の

モデル的な整備などを支援する「国産粗飼料広域流通体制整備事業」がある。本町に飼料米加工施設、粗飼料生産施設の建設を。

A 町長 全農が、平成29年に県域での飼料用米加工施設を庄原市に建設が予定されている。J Aや全農と連携し、本町もこの施設を拠点に飼料用米の生産拡大を図りたい。

飼料用米加工施設を庄原市に建設が予定されている。J Aや全農と連携し、本町もこの施設を拠点に飼料用米の生産拡大を図りたい。



神石郡畜産共進会



片山 元八郎 議員

問 自己採点は

答 評価は住民がする

Q 3期12年の自己採点は。
A 町長 評価は住民がするもの。

Q 来見小学校存続の理由は。
A 町長 地域住民の強い要望と「星の里いせき定住団地」の取り組みを考慮して、政策判断をした。

Q 「犬殺処分ゼロ宣言」の撤回を。
A 町長 継続する。8月末の「犬殺処分ゼロを目指す」全国集会で、本町は全国

トップを証明できた。全国の自治体から本町への関心は、非常に高かった。

Q 町立病院を死守せよ。
A 町長 医師と住民は、医療を施すものと受けるものという相対するものではなく、ともに力を合わせて地域の医療をつくり上げていくパートナーのようなものだと思う。指定管理者制度は8年目であり、人口減少の影響が大き

く、非常に厳しい運営が予想され、大胆な改革が求められる。

Q なぜ成人式で小説「黒い雨」を贈呈するのか。
A 教育長 小説「黒い雨」は、本町を舞台としているため、贈呈している。終戦記念日に行われる成人式に、戦争や被爆の実相に関する本について、今後前向きに検討する。

成人式を迎えた若者（三和中卒業生）



成人式を迎えた若者（三和中卒業生）

問 これからの公民館活動は

答 協働支援センターと協議する



松本 彰夫 議員

Q 公民館活動は、平成28年度中は通常通り活動する。1年かけて協働支援センターと調整を図りながら、

公民館の位置づけや役割を検討して方向性を定めたいと言われているが、どのように検討しているのか。

A 町長 各地区協働支援センターの会議で、現在の公民館活動との連携や協働支援センターの中で生涯学習の活動を行う事を検討

している。

討してもらおうようにお願いしている。

Q 協働支援センターも、当初は、公民館活動は想定していなかったと思う。協働支援センターも今後の業務が不透明な中、生涯学習など対応できるのか。

A 町長 行政のスリム化も取り組まなくてはならない。公民館も、自治公民館として機能できないかという検討もし、協働支援センターの中で生涯学習など公民館活動を取り組むよう協議したい。

Q 公民館の体制が変わることについて、公民館運営委員会や青年会・女性会・老人クラブなど利用団体との協議は。

している。

A 教育長 協働支援センター発足に伴い、地区公民館事業を調整していく年になると説明している。

Q 公民館で働いている職員の身分は。

A 副町長 検討中であるが、協働支援センターでの雇用という事が考えられる。現在の雇用条件が守られるようにしたい。

Q 現在可燃ごみの処理は、県内9市町の連携で、RDF方式で行っている。この広域処理の契約期限は、平成30年までで、5年間の延長も検討されている。現在、廿日市と大竹市、庄原市、府中市が脱退し、単独で焼却施設での処理を表明

している。

可燃ごみの処理は



キッズ教室の柏餅づくり（油木公民館）

している。

A 町長 本町も他の市との連携で燃焼式の処理を行うべきと思うが、どのように考えているのか。

A 町長 本町単独で焼却施設を持つことは困難である。現在のRDF処理について、リサイクル発電の結論が出たら早急に検討する。

とは困難である。現在のRDF処理について、リサイクル発電の結論が出たら早急に検討する。



赤木 俊二 議員

問 総合戦略1年目評価は

答 事業はおおむね有効

Q 昨年10月に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、1年ごとに事業の評価を行うことになっている。

主要施策や定住人口の拡大に関しての評価と展望は。

A 町長 8月26日に「神石高原町総合戦略策定委員会」を開催し、事業の説明と評価について意見を求め

た。役場内部での事業評価はもちろんのこと、委員からもおおむね有効な事業であるとの評価をいただいた。今後町財政の縮小も見込まれるが、町民や各団体などの意見などを参考にして一緒に事業を進めていきたい。次の町長との引き継ぎにおいて、人口倍増計画を一つのスローガンとしてこれに挑戦してほしいことを要請したい。

を上回っている。

この定住推進に向けては働く場所が必要である。

現在、就業支援事業は求人情報提供にとどまっているが、さらなる対応を。

A まちづくり推進課長 定住の促進に関しては空き家バンクを中心にやっていく。現在登録希望が50件ほどある。速やかに進めていきたい。

課題として、地域の方と良好な関係を築けるような方法を地域の方を巻き込みながら作っていく必要がある。

Q 総合戦略は人口減少に対しての対策が一番の目標であると考えてる。

U・イーターン転入者目標が平成31年度までに50世帯100人、年間では10世帯20人が目標だが、平成27年度実績は12世帯20人と計画

就業支援に関して、今年度中には事業所を回り企業の求人ニーズをつかんでいく予定だ。ハローワーク

のように斡旋というかたちで町が責任をもって行うのは難しい。単なる紹介という形にはなるが窓口を置いて、定住相談・就業の機会

の紹介という形までにはもっていききたい。人口倍増に向けて頑張っていきたい。



秋空の下で頑張る子どもたち（油木小学校運動会）

問 空き家バンクの 契約状況は

答 賃貸・売買あわせ80件



横尾 正文 議員

Q 空き家バンクの契約状況は。

A 町長 これまで登録された空き家は109件、うち売買された物件が49件、賃貸が30件など計80件となっている。一方で、空き家の利用希望者は407件である。

Q お試し住宅の改修費に150万円、

2軒分の予算付けしているが、状況は。

A 町長 町内のNPO法人から1件申請があった。現在空き家を改修されており、10月から運用される予定である。

Q 有機農業研修生やNPOの職員の方が、シェアハウス的なものを必要とされておられる。町で確保できないか。

A 町長 町では、一つの住居を複数人で共有するような住居の確保は考えていない。

Q 町内の方でシェアハウスを運営したい方がおられるが、町が補助金を出す考えは。

A 町長 町としては、農業研修生などの移住者を呼び込みたい。その方々の意向を聞かずに受け入れ体

制を考えていた。今後は、意向を聞きながらやるべきと思う。

Q 各地区の公民館と協働支援センターの方向性は。また事務所はどうなるのか。

A 町長 各地区で協働支援センター長などの出席のもと、策定作業を進めている。「地域まちづくり計画」に、生涯学習事業を計画に盛り込み、事業を担っていただくことなどを要望している。

Q また、意思疎通を図るため、同じ建物の中で仕事ができるよう調整している。

Q センター長と公民館長の位置づけは。

A 副町長 現在、協働支援センター長

公民館業務は



改修中のお試し住宅（草木地区）

Q 協働支援センターの「地域まちづくり計画」を積み上げて

は集落支援員、公民館長は非常勤特別職となっている。確定ではないが、公民館長は協働支援センターでの雇用という形がいいと考えている。

いる段階なので、来年度包括的に一緒になるのは時期尚早では。

A 副町長 協働支援センターの設立に時間がかかり、「地域まちづくり計画」が遅れたが、今年度を調整期間にして、行政の目標として提示した。



橋本 輝久 議員

問 次世代に託す事は

答 強い意志での挑戦

Q 初代町長として、手腕をいかんなく

発揮され、その決断力・友愛の精神は素晴らしいものだと感じている。成果も目に見える形もあるが、まだまだ課題は山積している。これまでの財政運営の成果と今後の課題は。

A 町長 地方債は、平成27年度末では

81億円減の131億円となっている。財政健全化では、実質公債費比率が平成21年度21・

9%から平成27年度8・2%と13・7%改善されている。将来負担比率も平成18年14

8・8%からマイナス81・5%となり安全な経営体になっていると思う。

今後、人口減少などにより地方交付税の減額が予想され、町税などの自主財源確保が大きな課題だ。

Q 次に託す事や期待する事は何か。

A 町長 人口減少が一番の課題だ。人口増計画として10億

円の基金をする。意外性をもって強い意志で挑戦してほしい。

基金の運用は

Q 19事業の基金が平成27年度末では約

111億円あるが、基金の運用内容は。

A 町長 基金の一括運用により、資金のおおむね1/3程度

36億円を債権で運用している。平成27年度の基金運用収益は約2600万円あり前年の基金利子より約800万円の増となっている。

今後よりリスクを伴うものなので慎重に行う。

町立病院の運営は

Q 運営は非常に厳しいものであり、今後予想される財政補填

拡大は町にとって大きな問題だ。この解消には指定管理者の体制や努力が不可欠だ。現状のままで経費が膨らみ続けるが、町はどのような対策と対応をしていくのか。

A 町長 町からの補填は平成27年度政策医療交付金が、当初



とよまつ保育所の元気な子ども達

予算1億3900万円に、平成28年3月補正の6274万円を加えて約2億円となっている。平成27年7月から入院稼働率の低下について対策協議を行っている。また本町の実状に

あった病院機能や規模を検討しており、移転新築や病院運営では医療ニーズと質、それに財政支出とのバランスが最良となる選択をして行きたい。

平成28年度
9月
補正予算

新しい時代への飛躍を 目指すための大型補正

一般会計

補正予算額 12億6582万円
補正後予算額 115億4211万円

おもな補正事業

・新規就農者の育成を図るためのビニールハウス設置補助	731万円
・堆肥ストックヤードの増築（油木・神石）	3816万円
・農地及び農業用施設災害復旧	1833万円
・土木施設災害復旧	3013万円

人口倍増の実現へ向けて基金造成 10億円

1. 企業誘致・既存企業の設備投資などによる雇用促進	3億円
2. 農林業振興・畜産振興・新規就農支援	2億円
3. 小中高校連携の推進、油木高校の更なる活性化と充実支援	2億円
4. 子育て支援・高齢者支援事業の拡充	2億円
5. 町立病院の安定運営、政策的医療などの維持	1億円



全議員一同（議場）

今期最後の定例会を終えました。
お世話になりました。

条例制定・改正 こんなことが決まったよ

全会
一致

条例の制定

・名誉町民条例

広く社会の発展に功績のあつたものに対し、神石高原町名誉町民の称号を贈る。

・企業立地基金条例

企業立地、設備投資及び雇用の促進に要する経費の財源にあてるため。

・産業振興基金条例

町の産業振興を図る経費の財源にあてるため。

・空き家等の適正管理に関する条例

空き家等の適正管理に必要な事項を定めるため。

全会
一致

条例の一部改正

・農林事業等分担金徴収条例

家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例

全会
一致

町道路線の認定

・第3重松支線2号

・第3重松線(2本) 78.0m

115.8m

全会
一致

財産の取得

・普通四輪小型動力ポンプ積載車
(ダブルキャビン四輪駆動車)

配 備 先 神石高原町古川
取得金額 971万円



古川地区へ配備される小型動力ポンプ積載車

議員発議 概要

義務教育国庫負担制度2分の1の復元、教職員定数改善を求める意見書

憲法上の要請でもある教育の機会均等を保証するための要望など。

義務教育費国庫負担金制度の堅持と2分の1への復元や教育予算の充実のため、予算の拡充。さらに30人以下の学級の推進など。

提出者 松本 彰夫 議員

賛成者 横山 素子 議員

有害鳥獣対策の推進を求める意見書

有害鳥獣は増加し農業従事者にとって深刻な事態を招いている。捕獲後の処理と地域資源へ転換のための要望など。

1 被害対策の中核となるコーディネーターの育成と狩猟者の確保

2 個体数の管理のためのICTの積極的活用

3 食肉処理施設の整備と財政支援

提出者 寄定 秀幸 議員

賛成者 横尾 正文 議員

追跡ありやあどうなったん？

マイナスイオンいっぱいの 森林セラピー

神石高原町観光協会は、平成17年6月に設立し、以来、紆余曲折を経て今に至っている。

主には、恋人の聖地事業や伝統芸能の神楽を使った観光振興、そして新たに森林セラピー・ツーリズムの推進などを主要事業として行っている。

町の観光行政の一翼を担うべく、積極的な広報・情報発信などを行い、多くの観光客の招致に力を入れている。

特に森林セラピーにおいては、スコラ高原と仙養ヶ原を基地として、セラピーガイドを33人配置し、現在も4人がガイド研修を行っている。森を

ゆっくりと歩きな

がら楽しむ森林セ

ラピーは、町のあ

りのままの資源を

活用して行うこと

ができ、ストレス

軽減・健康増進に

寄与している。町

民に対しては無料

で案内できる枠が

あるのでこの機会

にいかがでしょう

か？



森林セラピーを楽しむ観光客（仙養ヶ原）

まちの声

○神石高原町の発展をお祈りします。
(78才 女性)

○議員の皆様頑張ってください。
(94才 女性)

○もっとたくさんの人に当たりますように。クイズを楽しみにしています。
(63才 男性)

○良い議会広報ができています。
(80才 男性)

○議会の状況がよくわかります。今期もあと少しですが、元気で頑張ってください。
(80才 男性)

○答もっと分かりやすい広報誌づくりに努めていきます。
(80才 男性)

○議会中継を見ているのですが、早口なので年寄りには聞きづらく理解するのが難儀です。時間が限られるので、無理なお願いかもしれませんが、ゆっくり、はっきりと話して頂ければうれしいです。
(80才 女性)

○貴重なご意見をありがとうございます。
(80才 女性)

この声を伝え、分かりやすい議会にしていこう努力します。

○地域によると食料品店がなく食品購入が困難で、今後は移動販売や予約により届ける方法が多くなると予想されるが、何か良い方法は。
(男性)

○買った木の葉や土などを見るだけで、大雨の後に見回りで状況把握をしてもらいたい。
(男性)

○買い物支援が益々重要課題となりますが、皆さんと一緒に知恵を出し合ってください。
(男性)

○パトロールに関しては要望として担当課へ伝えておきます。

議会クイズにたくさんのご応募ありがとうございました。
クイズの答え

- ① トマト
- ② 町立病院
- ③ 防災

第29回議会クイズ当選者

神石地区

田辺 秀 三さん

おめでとございます。

常任委員会の活動報告

総務文教常任委員会

調査事項

・議会中継について

開催日時

・平成28年9月12日(月)

調査内容

現在ケーブルテレビでの放映をおこなっているが、更なる取り組みとして、インターネット中継を行うため

協議事項

○インターネットによる議会中継に関して

情報公開を積極的に推進するため、地域インターネットの整備により、インターネット中継の取り組みを行う目的として協議を進めてきた。

平成28年4月27日の北広島町で取り組みを行っているインター

ネットによる議会中継など視察し調査研究を進めてきた。また9月

12日には、本町とIRU契約を結んでいるケーブルテレビの担当者を呼んで、インターネットを利用した動画配信について説明を聞き協議した。

協議結果

多数のアクセスに対応するものやライブ中継、録画など動画配信する場合さまざまな方法がある。また編集作業やコンテンツ変換作業などに、経費が伴ってくるためさらに細部にわたり詳しく研究する必要がある。現委員会としては、次期総務文教常任委員会へ継続審査を求めるものと結論に達した。

産業建設常任委員会

調査事項

- ①有害鳥獣生態系の状況及び捕獲と処理の状況について
- ②ジビエの食肉加工所「山くじら」との協議

開催日時

・平成28年9月6日(火)

調査内容

地区猟友会・有害鳥獣捕獲班との意見交換及び現地調査

協議事項

①猟友会・有害鳥獣捕獲班

【現状】

・処理は半分が埋設、1/3が食用。食用は在庫が増加。残りは燻製などの加工品と犬のエサ。

・サルの群れの個体数が増加している。

・狩猟免許取得者が減っている。とくにライフル銃免許の取得者は3名しかいない。

・熊の出没が増えている。

【課題と要望】

・処理施設を建設しても採算が取れない。

・捕獲奨励金の増額で効果を上げては。

・免許取得の支援策の拡大を。

・サル捕獲のための罠の補助の増額を。

・熊の駆除強化を県に要望してほしい。

②山くじら

【現状】

・採算が取れない。人件費を入れると赤字。

・合併槽では経費がかかるので汲み取り式。

【課題】

・処理施設を建設しても、維持費を考えると採算ベースは難しい。



食肉処理施設「山くじら」の視察

元気なグループ紹介だよ

企画・地域おこしグループ 上豊松自治振興会



上豊松自治振興会では、企画・地域おこしグループなど7つのグループがあり、それぞれグループ代表をリーダーとし1年を通していろいろな地域活動を行っています。

今回紹介する企画・地域おこしグループは、平成24年4月から、月1回の第3水曜日午後1時から5時まで上豊松コミュニティセンターの調理室で、「地域カフェかみとよ」を開店しました。憩のひとときを過ぎしていただく為、コーヒー飲み放題やケーキなどセットで一人200円を頂戴し提供しています。1日約30人の来客があり、開店から現在まで延べ人数1072人の来客があり大変好評です。どなたでも結構ですので是非おいでください。大勢のご来客をお待ちしています。

第30回 議会クイズ

《クイズ》空欄に適切な言葉をいれてください。

1. P3 実質〇〇費比率8.2%
2. 一般質問 就任以来の成果は〇〇〇の基盤ができた
3. ありやあどうなつたん？
マイナスイオンいっぱい
〇〇セラピー

《ヒント》 議会広報をよく読んでね。

《応募方法》

ハガキに「答え・住所・氏名（ふりがな）・年齢」議会への要望・ご意見なども記入してください。正解者多数の場合は厳正な抽選により、1人の方に5000円分のこうげん通貨券をお送りいたします。

応募は、1人・1通に限らせていただきます。

《あて先》

〒720-1522

神石高原町小島二〇二五番地
神石高原町議会事務局「第30回
議会クイズ係宛」

《締め切り》

11月10日（木）消印有効

《個人情報取り扱いについて》
ご記入いただきました個人情報
は、賞品発送および『まちの声』な
どの目的以外には利用いたしません。

議会を傍聴してみませんか 次回の定例会は12月です

表紙の紹介



油木小学校運動会

編集後記

「みんなの町議会」発刊に向けて、編集や校正作業に携わり、町財政など多くのことを学ぶことができた。毎号、委員がそれぞれの特性を生かし、工夫や新しい取り組みも入れ、出来上がった広報誌である。

議会広報誌として、全国の奨励賞や広島県では最優秀賞と高い評価をいただいた事は、作業する上で励みにもなり委員として万感の思いである。

益々、読みやすくわかりやすい議会広報誌をめざし、発展を願う。
(橋)

議会広報常任委員会

委員長 横山 素子
副委員長 赤木 俊二
委員 橋本 輝久
委員 横尾 正文

■発行 / 神石高原町議会

■編集 / 議会広報常任委員会